

# 「一日防災学校」を開催

子どもたちの防災意識の一層の向上を目的に、9月9日（木）に「一日防災学校」を実施しました。避難訓練（火災）、避難所生活の模擬体験、自然災害への対応の講話、防災倉庫の見学など、防災に関わる訓練や体験学習等を一日を通して行いました。

避難訓練は、出火時間を告知せず、非常ベルが鳴ったところから訓練を始めました。突然の非常ベルに、少し驚いていた児童もいましたが、放送や先生の指示をよく聞き、「おはしも」を守りながらグラウンドに避難することができました。その後、各学級から代表1名が参加し、消火訓練を行いました。消火器を持ち、レバーを握りしめ、水を放出しながら出



火場所に向かって消火活動を行いました。この後は、体育館に移動し避難所生活の模擬体験です。初めに、体育館の入口で一人ずつ検温を行い、避難者個別カードに名前と住所を記入しました。次は、五人一組のグループでダンボールベッドの組立てにチャレンジしました。箱に表面に描かれている作り方の図を見ながら、協力してベッドを組み立てていきました。完成した後に、布団を敷いて寝転んだり数人で乗ったりしました。子どもたちからは「3人乗っても大丈夫だよ。」「寝心地もいいよ。」などの声が聞こえてきました。この後、避難所



用の簡易テントや靴のまま履けるトイレのスリッパなども紹介していただき、最後に非常食について学習しました。いろいろな種類の非常食があることを紹介していただいた後、実際に水で戻したアルファ米を試食させていただきました。子どもたちからは「意外においしい。」「これなら食べられる。」という声が多かったです。しかし、担当者の「この食事が1ヵ月続くとどう思いますか。」の言葉に、「それはいやだなあ。」と考えさせられたようでした。他にも、5年間保

存ができるペットボトルの水を試飲しました。「少し味が違うな。」といいながら、5年間保存できる水に驚いていました。

午後からは、役場を訪問し、滝上町で起こった自然災害の写真を見せていただきながら、安心安全メールを活用した町民への連絡や全国瞬時警報システム「アラート」等を紹介していただきました。最後に今年の1月に完成したばかりの防災倉庫を見学させていただきました。ダンボールベッド、おむつ、布団、テントなどたくさんの種類の防災用品が保存されていました。非常食は、年間を通して一定の温度を保つことができる温度管理室に保管されていました。12年間保存できる水などもあり、子どもたちは興味津々で担当者へ質問をしていました。一日防災学校での学習を通して、災害時には、みんなが協力し合うことの大切さや、災害に備えての準備が大事であることを学びました。

